

6月に入ると、いよいよ梅雨の季節ですね。ジメジメとした環境で体調を崩さないように、注意しましょう。屋外でのマスク着用も一部解除になり、暑さの中熱中症にならないように注意していきましょう。

★トピックス～水虫 足や爪の白癬について

皮膚糸状菌（白癬菌、カビの仲間）の感染によって起こる水虫（足白癬）は、これからの季節活動が活発になります。梅雨時の湿気の多い環境と汗をかいたりして局所が蒸れたりすると、カビの繁殖に都合の良い環境となります。

●水虫はかゆいとは限らない

水虫は皮膚の一番外側にある角質層に侵入し、その構成成分であるケラチンを栄養源として、じわじわと領土を広げていきます。時には爪や足だけでなく体にまで広がり、家族にまで感染します。「痒くないから大丈夫だろう」と放置していると治療が困難になります。早期に治療を開始することが重要です。

●水虫は進行する

糸状菌は、最初は足の裏や足の指の間（特に第4趾間）に感染することがおおく、徐々に広がっていきます。年月を経て角質層の厚いかかと（角化型）または爪に入り込みます（爪白癬）。その広がり足だけではなく、体部白癬（タムシ・インキンタムシ）として、体の湿気の多いところに繁殖していきます。

風呂場の足ふきマットやスリッパなどは、感染者とは区別しましょう。これらからお子様にも感染が広がることもあります。

●重症タイプの水虫

慢性化した角化型では痒みがない分、治療が遅れて治癒しにくくなります。厚い角質層の中に菌が入り込み薬が浸透しにくいからです。これは爪白癬も同様で、表面からの薬は浸透しにくいのです。このため爪白癬治療には内服薬が重要になります。爪白癬は爪に変化（混濁や肥厚など）一度変性を起こすと、治療しても局所には変化が起きません。爪の基部から新しい正常の爪が生え変わることで完治するわけです。足の爪が生え代わるには平均で1年半以上かかります。

●治療は根気よく

水虫ははじめは痒みがあっても、徐々に症状はなくなってきます。糸状菌が角質層の下の方に潜んでおり、治療を中断したり夏になりジメジメしてくると、白癬菌が活動を活発化します。なので自覚症状や見た目が良くなっても自己判断で治療を中止しないでください。爪白癬などは時間はかかりますが、しっかりと的確な治療を行えば、必ず治ります。

外用薬 クリームや軟膏、液剤があります。皮膚への浸透力、貯留性に優れた薬剤が開発され、特に爪には専用の薬剤があります。

内服薬 服用期間は長期になりますが、副作用や薬の相互作用で飲めない方もいます。妊娠されている方は内服はできません。ただ内服薬併用することで、治癒率が上がりますので、使用に関しては医師とよくご相談ください。



Candida albicans



4 回目のコロナワクチンについて

7月から60歳以上の方には、順次ワクチン接種券が郵送されます。ワクチンによる感染回避は難しいですが、重症化を防ぐ効果はありますので、接種をご検討ください。当院でも接種可能ですので、ご予約ください。